国立大学法人京都工芸繊維大学の平成28年度の業務の実績に対する
国立大学法人評価委員会の評価結果について

標記のことについて、平成29年11月21日付けで国立大学法人評価委員会から次のとおり評価結果の通知を受けましたので公表いたします。

全体として、平成28年度計画の記載事項すべてにおいて**「年度計画を上回って実施している」**又は**「年度計画を十分に実施している」**と認められるとされ、それぞれの目標について**「順調に進んでいる」**と評価されました。

個別の取組では、**「TECH LEADER」の育成**に向けた**「グローバルインターンシップの実施」**、**経営力強化**を図るための**「東京芸術大学と連携した大学ＩＲ情報の収集・分析」**、**定量的指標の進捗管理**による**「ＰＤＣＡサイクルを通じた事業改善」**、本学の技術やシーズを活かした**「産学官連携による地域振興」**の推進などの取組や**外国での教育研究歴のある教員**の比率が**目標を著しく上回っている**ことなどが業務運営の活性化や教育研究の質の向上につながるものとして評価されました。

また、「戦略的・意欲的な目標・計画」への取組として、教育課程の高度・国際化に向けた**「英語科目の抜本的再構成」**や**「ジョイント・ディグリープログラムの実施」**、教務システム改革による留学生受入・派遣の拡大に向けた**「科目ナンバリングの導入」**などが積極的な取組として取り上げられました。

その他の事項についても、教育研究の質の向上と大学運営の改善に努め、地域社会をはじめとする、社会からの負託に応えていく所存です。

国立大学法人京都工芸繊維大学

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人京都工芸繊維大学

１ 全体評価

京都工芸繊維大学は、長い歴史の中で培った学問的蓄積の上に立って、「人間と自然の調和」、「感性と知性の融合」及び「高い倫理性に基づく技術」を目指す教育研究によって、困難な課題を解決する能力と高い倫理性・豊かな感性をもった国際的高度専門技術者を育成することを目指している。第３期中期目標期間においては、長期ビジョンの実現に向けた飛躍的発展期として、グローバル化に対応した教育の高度化、イノベーション創出のための研究活動の活性化、地域活性化のための拠点機能の強化、大学の強みや特色の強化を実現するための組織や制度の構造改革等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、グローバルな現場でリーダーシップを発揮できる人材である「TECH LEADER」の育成に向けて、海外の企業・研究機関・大学等において企業体験や国際ワークショップといった実践的PBLを行うグローバルインターンシップを実施しているほか、大学連携IRを通じた経営力の強化を図るために、東京芸術大学と連携し、大学IR情報の収集・分析や共有等を行うなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第３期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

○　英語科目を抜本的に再構成し、新たな必修科目として、外部試験を指標とし、高度で柔軟な英語能力を養う「Career English」や独自開発したスピーキングテストを組み込んだ「Interactive English」等を実施するとともに、TOEICスコアを蓄積できるよう教務システム、総合型ポートフォリオの改修を行っている。また、教育の国際化を目指し、ジョイント・ディグリープログラム「京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻」の開設に向けて、３つのポリシーを踏まえたカリキュラム及び入試を設計し、平成28年９月に入試を行い、入学予定者を決定している。（ユニット「教育課程の高度化・国際化の取組」に関する取組）

○　学部と大学院の一貫教育を見据えた学習の体系化や、カリキュラムの国際通用性を高めるために、授業科目のレベル、学問分野、使用言語を表す科目ナンバリングを導入するとともに、平成29年度のカリキュラムにおいては、平成28年度の科目ナンバリング表を用いたカリキュラムの順次性や体系性の検証を行った上でカリキュラムを作成している。（ユニット「教務システム改革による留学生受入・派遣の拡大」に関する取組）

２ 項目別評価

＜評価結果の概況＞	特　筆	一定の注目事項	順　調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
（１）業務運営の改善及び効率化			○			
（２）財務内容の改善			○			
（３）自己点検・評価及び情報提供			○			
（４）その他業務運営			○			

Ⅰ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善　②教育研究組織の見直し　③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載18事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ IRを通じた経営力強化に向けた大学連携

大学連携IRを通じた経営力の強化を図ることを目的として、「デザイン」と「芸術」という、互いを生かせる強みを持つ東京芸術大学との連携による「大学連携IR推進連絡会議」を設置しており、大学IR情報の収集・分析や、お互いの大学におけるグッドプラクティスの共有を行っている。

○ 年度計画を著しく上回る目標の達成

年度計画【24-5-1】に関して、平成28年度における外国での教育研究歴のある教員の比率が26.4%となっており、年度計画に掲げる目標である「20%程度にする」を著しく上回っていると認められる。

（２）財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加　②経費の抑制　③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載５事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実　②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載５事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 定量的指標の進捗管理一元化によるPDCAサイクルを通じた事業改善

中期目標・中期計画をはじめとして大学が掲げる定量的指標約180項目を、学長直下の大学評価室において一元的に進捗状況の管理・分析を行い、学長をトップとする大学の運営戦略を企画・立案する大学戦略キャビネットにおいて全学的に共有するとともに、進捗が遅れている指標については対応の方向性を決定し、実行を指示するなど、トップマネジメントによるPDCAサイクルを通じた事業改善を実施している。

（４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等　②安全管理　③法令遵守

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載８事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、第２期中期目標期間評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ グローバルな現場で活躍する人材を育成する実践的教育の充実

グローバルな現場でリーダーシップを発揮し、組織やプロジェクトを成功に導く人材である「TECH LEADER」の育成に向けて、海外の企業、研究機関、大学等において、現地の最先端研究・開発現場等を体験する企業体験や海外の大学等と共同で実践的な国際協働体験を行うワークショップといった実践的PBLを行うグローバルインターンシップを実施し、182名の学生を派遣している。

○ 産学官連携による地域振興

京都府北部に位置する京丹後市との包括協定に基づく事業の一つとして、ものづくり企業関係者を招いて研究室や施設設備の見学及びシーズ紹介を行う挑戦型企業セミナーを開催しているほか、京丹後市におけるシルク産業の振興拠点である新シルク産業創造館において、大学の技術やシーズを生かした技術指導、研修等を行うなど、京都府北部の地域振興を推進している。